**菅原道真**

菅原道真（845–903）は、京都で宮廷に勤めて名を成した学者であり、政治家でした。ですが、現在の香川県と関わりのある人物でもあります。学者を輩出する高貴な一族に生まれた彼は、宮廷の官僚制度を駆け上がりました。そして886年、讃岐地方（現在の香川）の国司に任命されたのです。道真公が讃岐を統治した国府は、現在の坂出市府中町地域です。この地域では、数多くの場所が道真公とのつながりを今も主張しています。彼は、国司を務めた4年の間、お気に入りの娯楽である漢詩を詠むことにたくさんの時間を費やしたと言われています。

また任期を通して、道真公は讃岐の人々に愛されました。彼が地域の英雄になったのは888年、前例のない日照りに地域が見舞われた時のことです。道真公が苦しむ人々を救おうと城山へ登り、降雨祈願を行ったところ、その願いに天がこたえたのです。大喜びした民衆は、道真公が住居としていた滝宮の前に集まり熱狂的に踊りました。そこは当時の開拓地で、今では隣接する綾川町の一部となっています。民衆によるこの踊りは、今でも滝宮で開催されている、道真公に感謝を表して豊作を求めるための儀式的な踊りの起源と考えられています。道真公が祈願を行なったとされる山に設けられた城山神社の聖域も、元の場所からわずかに動かされたものの残存しています。

890年に京都へ戻った後、宇多天皇（867–931）の治世中に道真公は宮廷で名を上げました。ですが結局、権力争いに敗れてしまいます。901年、事実上の流刑として、彼は日本の主要四島中最南に位置する九州へと送られます。道真公が流刑先で亡くなった後、京都は繰り返し病と自然災害に襲われました。それらの厄災が道真公の怨念によるものと考えられたため、宮廷は新しく北野天満宮を建造することで、その名誉を急いで回復し、讃えました。菅原道真を学問の神として讃える天満宮は日本中で見ることができます。牛ノ小山天神、石井天満宮、黒岩天満宮など、坂出にもそのような神社がいくつか存在します。